

1. 活動の概要

6月12日(月)、松江市立本庄小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。“奈良時代のお金と奈良の大仏”と題して、和同開珎づくり、実物大の大仏パネル作成を中心とした学習活動をおこないました。

まずお金の歴史、鑄造について学習しました。島根県からたくさん出土している青銅器(模鑄品)の輝きや重さを、自分の手で確かめてもらいます。そして低融点金属を使用した、和同開珎づくりを体験しました。鍋の中で金属が溶けていく様子に歓声があがります。鑄造は大成功、みごとに和同開珎ができあがりました。

次に、奈良の大仏が作られた時代の歴史背景についてお話し、体育館のフロアいっぱいに、みんなで協力しながら大仏パネルを作ります。この体験活動を通して、大仏の大きさを実感することができました。最後に完成した大仏を観察しながら、質問タイムです。「頭のぶつぶつはなに?」「おでこのほくろみたいなものはなに?」などなど、たくさんの質問が飛び出しました。

2. 活動の様子



「銅鐸を鳴らしてみましょう。」



「風が強くてなかなか金属が溶けない!」



「本庄小大仏をきれいにつくろう。」



「上から見ると、大きさを実感できるかな」

3. 子ども塾を終えて

1)児童の皆さんから…

- ・島根県からたくさん銅剣や銅鐸が出てきたことをうれしく思います。
- ・和同開珎作りは、本物を作る工程がよく分かりました。
- ・大仏は予想以上にでかくてびっくりしました。昔の人はすごいなあと思いました。

2)担任の先生から…

- ・資料を提示しながら分かりやすく教えていただき、子ども達の関心も高まったところでの体験活動でしたので、深い学びにつながりました。
- ・今回の学習が次につながるよう、博物館での展示、企画の紹介を担当が行い、夏休み期間中に家族で訪れることができるように情報提供していこうと思います。
- ・その後、家で古銭について調べたり、夏休み期間中に歴史博物館に行く予定を立てたり、銅鏡や銅鐸の話題がクラスの日常の話題に上がったりしております。